

【様式】

令和4年度 学校マネジメントシート

学校名(松阪工業高等学校 全日制)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<p>○社会人として必要とされる人材となるために、挨拶をはじめとする基本的な生活習慣を身につけ、人権感覚豊かな人間性を磨く学校</p> <p>○専門学科における知識、技術の習得に意欲や向上心を持ち、技術者として通用する専門性を養うとともに、地域からの信頼に応える学校</p> <p>○文武両道に成果を示すことのできる生き生きとした学校</p>
(2)	育みたい 児童生徒像	<p>○基本的な生活習慣と高いコミュニケーション能力を身につけた人権感覚豊かな生徒</p> <p>○仲間を大切にしながら部活動や資格取得等の取組を活発に行う生徒</p> <p>○希望の進路実現に向けて主体的、積極的に行動する生徒</p>
	ありたい 教職員像	<p>○生徒の個性を伸ばしながら人間性を高めることを常に意識し、生徒の成長を自らの喜びとする教職員</p> <p>○生徒の進路実現を目指し、基礎学力の向上や専門的な知識・技術の習得等に向けた弛まぬ努力を行う教職員</p>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>〈生徒〉希望進路の実現。わかりやすい授業の実施と基礎学力の向上。充実した学校行事や部活動等の実施。</p> <p>〈保護者〉基礎学力の向上。希望進路の実現。施設・設備等の教育環境の充実。学校行事等への参加機会の増加。</p> <p>〈地域(含む小中学校、就職・進学先)〉社会人としての基本的な生活習慣や礼儀の養成。技術者としての広範な知識と高いコミュニケーション能力の育成。奉仕活動等の地域連携の充実。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
(3) 前年度の学校関係者評価等		<p>・「生徒」が前面に立ち、本校について自らの言葉で語ることは、本校をPRする格好の機会となり、在校生、中学生いずれにも良い刺激になるのではないかと。</p> <p>・去年よりも授業の状態が確実に良くなっている。生徒を街で見かける時もすごく雰囲気良くなっている。学校がよく努力されていることが伺える。今後もこの状態が続くようお願いしたい。</p> <p>・卒業後、都市部へ進学、就職しても対等に渡り合えるだけの学力を付ける必要がある。基礎学力の定着のために本校の教員が行っている活動を継続していただきたい。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>○教職員は、教科指導をはじめ、部活動指導や資格取得支援等で自律的な教育活動を展開しているが、質の向上という点で改善・工夫の余地がある。</p> <p>○生徒は、挨拶や礼儀等の基本的な生活習慣を身につけつつあるが、コミュニケーション能力の十分な習得には至っていない。</p>	
	学校運営等	<p>○本校への関心が高まり、諸行事への協力等の地域からの要請が増加しているが、生徒や教職員の間には多忙感も少なからず生じている。</p> <p>○令和2年度における県内教職員による生徒を著しく傷つける事案が続けて発生したことを踏まえ、教育への信頼回復のための取組が求められている。</p> <p>○ホームページや学校新聞「せきへきたましい」等による魅力的な広報活動を進めているが、一定の志願者数の確保には繋がっていない。</p>	

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>○生徒が自己肯定感(自尊感情)を高められるよう、基礎学力の向上、部活動指導や資格取得支援の取組を推進するとともに、特別支援教育や教育相談の充実を図る。</p> <p>○生徒が自己の在り方生き方を主体的に考えられるよう、「生徒指導は進路指導」の認識の下、基本的生活習慣の確立の取組を推進するとともに、コミュニケーション能力等の社会的・職業的自立に向けて必要となる資質・能力の育成を図る。</p> <p>○生徒が互いの良さや個性、多様な考えを認め合い、自主的・実践的に活動できるよう、人権教育、道徳教育、命を大切にす教育、主権者教育の充実を図る。</p>
学校運営等	<p>○生徒が主体的・対話的で深い学びができるよう、ICTを有効活用した授業改善を積極的に推進する。</p> <p>○中学生や地域住民が本校を魅力あふれる学校として認知できるよう、日々の情報発信をはじめとする広報活動を推進するとともに、地域活動等における連携・協働を図る。</p> <p>○基礎学力の向上に向け、各分掌の枠にとらわれず学校全体で取り組み、情報を共有する。</p> <p>○教職員のスキルアップのための校内研修会を定期的実施する。</p> <p>○職員の総勤務時間の縮減に取り組むとともに、業務全般について時間管理を意識した効率化を進め生徒も職員も生き生きした学校を目指す。</p> <p>○風通しのよい職場づくりに取り組み、個々の教職員との対話を大切にし、学校に対する思いを共有し、全教職員の意思統一を図る。</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教科等指導	<p>(1)基礎学力の定着・向上を図る。 【活動指標】①基礎力診断テスト等の取組の定期的な実施と学力水準の適切な把握。②補習等の効果的な指導の充実。 【成果指標】診断結果「Dゾーン」生徒数の減少及び「A・Bゾーン」生徒数の増加。</p> <p>(2)適切かつ効果的な部活動指導に努める。 【活動指標】①意欲的な参加機会の創出と生活とのバランスを考慮した活動の保障。②達成感・充実感をもたらす指導の充実。 【成果指標】部活動に所属する生徒にアンケートを実施し、部活動に対して満足感を感じる生徒の割合を80%以上にする。</p> <p>(3)資格取得の奨励に努める。 【活動指標】①主体的・積極的な受験(受検)機会の創出と補講等の効果的な支援の充実。②資格取得者の一定数の確保。 【成果指標】ジュニアマイスター顕彰認定者数上位校としての認定。</p>	<p>(1)昨年度に引き続き、国数英でD3ゾーンの生徒対象の個別指導を行った。宿題テストの実施により、上位層の基礎学力の定着につながった。</p> <p>(2)感染症拡大防止による活動の自粛等が引き続きあったが、各部が工夫しながら活動できた。 部活動に対して満足感を感じる生徒の割合…1年生:83.1%(133名/160名)、2年生:78.6%(103名/131名)、3年生90.1%(118名/131名)、全体:83.9%(354名/422名)</p> <p>(3)資格の受験者数は、ほぼ昨年度並み、合格者数は減少している。2年生はクラス減になっていることを考慮すれば、受験意欲はあったが、やや減ったと言うところだと考えられる。 ジュニアマイスターではゴールド受賞者が微増した。また、難関資格の電験三種に2人の合格を出した。超難関資格の電験二種も昨年に続いて合格者が出た。今年初めてエネルギー管理士に合格者を出した。</p>	
生徒指導	<p>(1)基本的生活習慣の確立を図る。</p>	<p>(1)登校指導や生徒会の挨拶運動の結</p>	

	<p>【活動指標】①毎日の登校指導挨拶の励行と遅刻者の減少に向けた指導の徹底。 ②問題行動の未然防止に向けた指導の充実と効果的な特別指導の推進。</p> <p>【成果指標】アンケートで自ら挨拶ができていると回答する生徒の割合を80%以上にする。また、遅刻者数及び問題行動件数の減少。</p>	<p>果、挨拶する生徒が増加した。自ら挨拶ができていると回答する生徒の割合…1年生：97.8%(175名/179名)、2年生：97.8%(179名/183名)、3年生94.5%(205名/217名)、全体：96.5%(559名/579名)</p> <p>遅刻数も減少した(2/28現在333件、昨年度360件)。また、特別指導数も減少傾向にある(2/28現在9件)、5年前から順に、29,15,19,10,11件)。</p>
進路指導	<p>(1)生徒の希望や適性に応じたキャリア教育の充実に努める。</p> <p>【活動指標】①資料室利用の促進や相談・面談の機会の創出。②企業や大学等の関係諸機関との早期からの連携の強化。</p> <p>【成果指標】卒業時点での進路未決定者数を0名にする。</p>	<p>(1)学校斡旋による就職希望者の内定率は100%、公務員合格は4名となった。進学先未定者は2名(3/13現在)で、これから受験に望む。</p>
その他の生徒支援	<p>(1)健康の自己管理(セルフ・ケア)能力の育成を図る。</p> <p>【活動指標】①効果的な啓発機会の創出と感染症防止や健康維持等に対する理解の促進。②生徒一人ひとりの課題に応じた教育相談(カウンセリング)の推進。</p> <p>【成果指標】保健室来室者数の減少及び教育相談・支援の充実。</p> <p>(2)豊かな心の育成を図る。</p> <p>【活動指標】①HR等での個性や多様な考え等を認め合う(いじめや暴力を許さない)環境の整備。②自立心や自律性、自他を大切にすることの理解と行動する力等の育成に向けた学校総体での取組の推進。</p> <p>【成果指標】学校生活(いじめ防止)アンケート、各種講話、人権LHR等の取組の定期的な実施と充実化。</p>	<p>(1)性教育、献血にかかる講演会をリモート等で実施し、自らの生き方を考えさせる良い機会となった。また、教育相談件数は190回を超え、昨年度の4倍を上回っている。個々に丁寧かつ継続的に面談し、重大な案件ではSSWや市町と連携しながら対応している。SC、担任とも協力し一定の支援ができた。</p> <p>(2)いじめ防止アンケートを活用し、いじめ防止に向けた早期対応に取り組んだ。また、教員に向けていじめ対策の一環として、SCを講師に迎え、いじめの加害者支援について研修会を行った。</p> <p>お互いを認め合う大切さを学ぶために、SNSの使い方や人を傷つけないことばに関する人権LHRを実施した。</p>

改善課題

それぞれの取組内容について、成果を上げていることをふまえ、成果指標をより高いものとすることや、成果指標そのものを再検討(検討の結果、変更しないことを含め)していく必要がある。

教育相談にかかわっては、課題の多様さや複雑さ、深刻さが目立っている。しかも、教育相談件数は激増している。引き続き、関係諸機関との連携を強化し、個々の状況に応じた適切な支援を充実させていかなければならない。

(2)学校運営等

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学校の活性化	<p>(1)授業改善の推進に努める。 【活動指標】①授業や学校行事等の積極的な公開。②校内外の研修への積極的な参加と継続的な自己研鑽。 【成果指標】教科内で互いの授業を見せ合いChromebookの活用方法を含め、授業改善に取り組む。</p> <p>(2)教職員の資質の向上を図る。 【活動指標】①現職教育等の効果的な実施②不祥事根絶に向けた働きかけを行うため、コンプライアンス意識の日々の醸成。 【成果指標】①現職教育を5回実施。②「学校信頼向上委員会」を10回開催。</p> <p>(3)ICT 機器活用の充実を図る。 【活動指標】生徒が授業内容をより理解しやすいように、Chromebookをはじめとする、ICT 機器の活用を促進する。 【成果指標】教職員に対してアンケートを実施し、ICT 機器活用により効率が上がったという回答を80%以上にする。</p>	<p>(1)昨年は中止した授業公開を今年度は実施した。文化祭や体育祭などの学校行事は、感染防止のため今年度も公開を見送った。 Chromebook を活用した授業を職員同士で見せ合う機会を持つことで、スキル向上が進んだ。 ICTや人権教育にかかわって、校内外への研修への積極的な参加と継続的な自己研鑽を行った。</p> <p>(2)観点別成績評価に関わる現職教育で職員内で目的や評価方法についての理解や共有を図ることができた。また、BYOD活用促進のために、現職教育を実施したほか、希望する教員を対象に少人数形式の研修会を夏季休業中に複数回実施した。現職教育…7回実施(「4/27 観点別評価について1」、「5/16, 18 Chromebook 活用」、「7/19 Chromebook 活用(希望者)」、「8/9,10 Chromebook 活用(計4展開、希望者)」、「9/1 観点別評価について2」、「11/21 教育相談(スクールカウンセラー)」、「2/22 人権教育(部落問題を解決するための教育)」)</p> <p>②学校信頼向上委員会…4回開催。五科長会(14回実施)の中でも、地域からの信頼を得るための取組にかかわる協議をほぼ毎回行った。</p> <p>(3)1学年におけるBYOD活用を促進する中で、2・3学年における貸し出し用Chromebookの活用も進んだ。教員が、ICT機器を活用にすることにより効果が上がったという回答は、2/12 現在 72.7%(教員 32名/44名)であった。</p>	
情報提供による信頼の構築	<p>(1)広報の充実とホームページ等による情報提供、及び、地域連携の深化に努める。 【活動指標】①学校案内やHP等の広報媒体の魅力化。②精選をふまえたうえでの地域貢献活動への参画。③行事ごとにおける本校のホームページ、ツイッターの更新 【成果指標】本校のホームページ、ツイッターの閲覧数の増加。</p>	<p>(1)行事ごとに頻繁にホームページ・ツイッターの更新を行うことで、それらを閲覧したうえでの生徒間のコミュニケーションも散見された。「いいね」数やフォロワー数が増加していることから、閲覧者数は増加しているといえる。</p>	

<p>働き方改革の推進</p>	<p>(1)総勤務時間の縮減に努める。 【活動指標】①定時退校日(月1回以上)の設定と定時退校者の一定数(職員数の90%)の確保。②部活動休養日(週1日)の完全実施。③諸会議の1時間以内での開催の完全実施。 【成果指標】①月平均時間外労働の削減(1人あたり25時間以下)。②年360時間を超え並びに月45時間を超えの時間外労働者の根絶。③年間休暇取得数の増加(1人あたり15日以上)。 (2)業務内容の平準化に努める。 【活動指標】①各分掌等の業務内容の精選。②部活動の設置数の削減。 【成果指標】組織委員会等での再編を視野に入れた校務分掌・部活動数の見直し。</p>	<p>(1)定時退校日を職員会議のある日に設定した(4月から12月までで、11回の設定)。定時退校者の割合は、4月から12月までの通算で48.5%(のべ定時退校した教職員数309名/のべ勤務教職員数637名)。部活動休養日(週1日)の完全実施とはならなかった。諸会議の1時間以内での開催の完全実施はならなかったが、4月から12月までの通算で、放課後に開催された会議の80.4%(78/97)が1時間以内での開催となった。月平均時間外労働の削減(1人あたり25時間以下)となったのは、4月から12月までで6ヶ月あった。年360時間を超え並びに月45時間を超えの時間外労働者の根絶はできなかった。年間休暇取得数の増加もならなかった。(1人あたり15日以上…4~12月でR4:8名、R3:16名) (2)各分掌等に業務内容の精選を行ったが、どれも必要な業務であった。部活動数は1減少した(無線部)。定数削減による各分掌の人員数や業務の見直しを行った。</p>
------------------------	--	--

改善課題

学校の魅力をさらに高めるとともに、中学校への発信、連携を進め、入学志願者の一定数の確保を、継続して図らなければならない。

業務改善については、部活動の設置数の削減や特定の教職員に時間外労働が偏っていること等、一層の働き方改革に努めなければならない。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<p>「学校の取組を公開する」、「生徒たちの実績を積極的にメディアに取り上げてもらう」、「SNSで発信する」ということは、重要なことである。本校生徒やその保護者の口コミは、地域への有力な情報源であると思われるので、このことをヒントにした情報発信をおこなってはどうか。取組んでいることは良いので、今後もさらに充実させてもらいたい。</p>
----------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<p>生徒の自己肯定感・自尊感情をより高めるためにも、基礎学力の向上に引き続き取り組む。教科の目標達成のため、また、生徒が興味関心を高め、自ら学ぶ姿勢を育てるために、これまでの普遍的な取組とICTの活用を両輪として、魅力ある授業づくりに取り組む。 教育相談等による生徒一人ひとりの課題に応じた適切な支援の充実に努める。</p>
<p>学校運営についての改善策</p>	<p>入学志願者の確保という点からも、特に地域貢献活動等をとおした魅力ある教育活動の実践を図ることや、工業高校としての魅力をよりアピールする工夫が必要である。また、そのためにも、業務内容の平準化等により一層の働き方改革に努める。</p>